

AG+

補習校ネット情報交換会 #45

小学校から中学校へ



2023.6.18

おねがい：できるだけ、カメラONでご参加ください。

本日の予定

1. 各校から
 2. 情報・意見交換
- 終了後、15 分間の自由懇談

◆ これからの情報交換会

現在のところ、予定はありません。リクエストをいただいて計画いたします。
リクエストは、tommitsu1122@gmail.com へ。

◆ 情報交換会の録画について

スタッフの反省材料とするためミーティングを録画しておりますが、それ以外の目的でお見せすることはありません。心配なく自由に発言していただくためですので、ご理解をお願いします。

◆ 出席者と連絡を取りたいとき

ご希望をお知らせください。相手の方の許可がいただければ、メールアドレスをお知らせします。

◆ こちらもごらんください

過去の AG5 補習授業校情報交換会資料 <https://www.ag-5.jp/post>

AG5 ウェブサイト <https://www.ag-5.jp>

補習校教員交流 Facebook <https://www.facebook.com/groups/1664125650300837/>

海外子女教育振興財団 (JOES) <https://www.joes.or.jp>



ここが聞きたい



これを言いたい

- ・ 中学校の学習内容は、日本で教育を受けていない子供たちにはなかなか難しいと思います。国際部を作るほどの規模ではない補習校で、学年水準の勉強をしていくための子供たちの学習意欲の保たせ方のコツがありましたら、教えていただきたいです。
- ・ 中学部で学ぶ意義はたくさんあります 一つはお互いの絆が深まります みんなで卒業を目指すところです そして中学校の学びをや中学校の学習内容は、日本で教育を受けていない子供たちにはなかなか難しいと思います。国際部を作るほどの規模ではない補習校で、学年水準の勉強をしていくための子供たちの学習意欲の保たせ方のコツがありましたら、教えていただきたいです。やり遂げる達成感でしょうか。
- ・ 現地校の勉強が大変になる、日本語習得の達成感が実感できない、思春期を迎えて大人である母親や教師との摩擦、葛藤を抱えている中学生をどのように応援するか。
- ・ 学齢で無条件で進めるのか、留年などがあるのか。
- ・ 進級基準
- ・ 中学生へも進学したいと思わせられる、指導、授業内容にするために、質の良い先生を育成するために定期的な講師研修が必要。また、担当学年は週一の学校のため、固定にして、それぞれの担当学年に集中し、エキスパートになる必要があると思います。
- ・ 通塾の割合・進学率・日本の高等学校への受験指導
- ・ 日本語力が弱い（教科書に振り仮名をつけている）生徒を中学に進級させているかどうかなど、中学進級の基準について。
- ・ 中高生こそ、学習言語の獲得のためにも、思春期の居場所としても、補習校の役割は重要なのに、現地校が多忙になってやめてしまうのは残念だなあ、と思います。
- ・ 現地校の勉強と、習い事との両立で出来ないと思っている子にどう接するか。
- ・ 我が子の場合は小学校までは、宿題の内容も細かく連絡が来るし、親が丸付けや確認などしていましたが、中学からは子どもに任せてくださいと言われました。任せてみても、間違った漢字に気が付かず「終わった」としたりで、やはり完全に任せるには至っていません。また、代講で入ったときに、普段は忙しい中学生たちなので、宿題を休み時間などにする生徒が何人かいましたが、答え丸写しをしている生徒が少なからずいました。丸写ししていても、漢字が間違っていたり、抜けがあ

ったりしていたので、「丸写しするなら正確に写しなさい」と思わず言ってしまいました。白紙で提出するよりは書写の勉強になるかと思いましたが、果たして良かったのか、未だに疑問です。

- ・他校の取り組みについての情報をいただき、本校の進級判定の改善の参考にさせて頂ければと思います。
- ・中学卒業を目標にしている保護者がやる気でも生徒本人の気持ちがついてきていない事があります。それがクラス運営にどう影響を及ぼすか、どう工夫されているかお聞きしてみたいです。
- ・中学校への進学率を上げるために、有効と思われる説明会などを開いている学校があれば、どのようなことを話されているのかお聞きしたいです。
- ・小6を区切りとして日本へ帰国児童を含め中学部へ進学する率が低いです（50%ほど）。日本語の力に問題がない児童もやめてしまうことが多く、残念な思いを毎年しています。進学しない理由はそれぞれありますので一概にはなんとも言えませんが、他の補習校の状況や対策などをお聞きしたいです。
- ・アセスメントを実施しているが校がございましたら、内容と方法、保護者への理解をいただく方法など。
- ・進級に満たない日本語力でも、本人の希望であれば受け入れている。そのような生徒の能力を伸ばすには？皆さんがどのように対応されているかご教示いただきたい。
- ・現在、中1を担当しています。中学部へ進学してすぐにやめてしまったり、2学期に入って突然やめてしまったりする生徒が毎年いる中で、担任として何ができるのか考えています。生徒の将来のためにどのようなサポートができるかお話を伺いたいです。
- ・子供の学習到達度違いが大きく、補習校中学部の中にはその学齢の習得知識を持たないまま在籍している子供も沢山あります。そういった子供へのアプローチや効果的な学習指導方法などを伺えたら嬉しいです。
- ・小学校中学年から、特に伸ばしておきたい能力について伺いたい。
- ・中学部への進学にあたり、進級のガイドラインなどがありますか？
- ・近年生徒の国語力低下が目立つので、基準は維持した方が良のではないかと思う。基準がないと、いつかクラスの大半が、教科書の内容も教員の説明も理解しにくくなり、授業自体がむなしなものになりそうで心配。
- ・他の補習校において、どのように中学生の数を維持するよう努力しているのか知りたい。
- ・中学生徒達のモチベーションの維持の仕方



♣三育学院サンタクララ校 * * * * *

本校は一貫校ですので、小6の生徒はほぼそのまま中学部に進学します。アセスメントはしますが、小6担任から成績や授業の様子などを聞いています。むしろ中学部で学ぶ意義などを生徒にも保護者にも伝えてコミットメントを求める形です。その上で進学する子はウエルカムです。

(前川 英樹)

♣北東イングランド * * * * *

中学部の授業見学、中学生からお手紙など。(ロブソン佐起子)

♣デュッセルドルフ * * * * *

中学部への組織的な進路指導はしておりませんが、生徒が抱える問題など共有させていただけると幸いです。(山柁 恭子)

♣ハイデルベルク * * * * *

中学進級にあたりある程度の基準を設けています。(モーザー衆子)

♣シンガポール日本語文化継承学校 * * * * *

中学校への進学にはアセスメントを行っています。小学6年生で小学校卒業テストが実施されるローカル校に通う児童の中には、一旦、6年生で退学、もしくは休学し、中学生になった時点で戻ってくることもあります。中高生コースと呼ぶ中学生以上のクラスでは、教科書ではなく、新聞記事やオンライン情報源など、実社会で使われる日本語教材を使用することを保護者に伝え、現中高生に5, 6年生とその保護者に向けてどんな授業を受けているのか説明させる時間を取っています。また、中高生の学習発表会にも5, 6年生を招待し、中高生の学びを実感してもらっています。

(磯崎みどり)

♣グルノーブル * * * * *

補習校は小学校までで、中学生になるとやめていきます。(三好 直美)

♣シュツットガルト * * * * *

中学部への進学に明確な基準はありませんが、進学希望者には必要に応じて担任が児童や保護者と話し合ったり、中学部の担任に相談することがあります。中学部に進学した生徒からは、中学部は日本語学習がより難しくなり現地校との両立が大変になる一方で、クラスの他の生徒とのつながりがより強くなるなど、日本語学習以外にも補習校に通う意味を見つけて楽しく通うようになったという声も聞かれます。今年から中学部の生徒が授業後に一緒に活動する時間を設けたところ、中学部の半分以上の生徒が参加し、学年間のつながりも強くなっています。(佐多 教子)

♣クリーブランド *****

特に実施していません。(後藤 豊実)

♣ダラス *****

昨年度より全ての小・中の各学年に進級判定を試行、今年度より実施しております。

(ウッドアード エリカ)

♣コロラド *****

特になく、保護者と本人の希望により進学。(松本由紀子)

♣カンザスシティ *****

カンザスシティ補習授業校では、中学校進学にあたってのアセスメントテストはしておりませんが、小学校卒業を機にやめるお子さんは、他の活動を選んだお子さんや、授業についていけてなかったけれど、小学校卒業まではと続けてきたお子さんのようです。学校としては進学してほしいのですが、進学時だけの問題ではなく、小学校全学年の積み重ねが進学を左右すると感じます。

(浜田 佐知)

♣ピッツバーグ *****

中学部への進学にあてた進級テスト、特別な指導等は、行なっていません。(リー 智子)

♣デトロイト *****

保護者説明会、(コロナ禍だったので)保護者授業見学会に代わる中1のZoom授業の閲覧の機会を設けた。(廣川 眞子)

♣グリーンビル *****

進学のための特別な指導や試験などはなし。片親が日本語を解しない家庭の子供のほとんどは、小学校6年間の修了を目標としており、中学に進学する生徒は極めて少なく、仮に進学しても途中で退学することが多い。(スコット恵子)

♣シンシナティ *****

中学部入部説明会を毎年2月に開催。(末沢 敦子)

♣オースチン *****

毎年12月、小6の生徒と保護者を対象に進学説明会を行い、その際に中学部の教材の紹介、心構え、簡単な授業内容の紹介(中一で学習する文法を用いて模擬授業)を行っている。進級テストはなし。(矢澤佳奈江)

12月に進学説明会を行います。小学部6年生全員とその保護者が対象です。小学部の教材と比べながら中学部の教材を見せたり、宿題の量を確認したり、単元テストや漢字テストの内容や量を示したりします。中学部の文法など(以前は「故郷」の導入部をしたことも)の模擬授業を行い授業の様子を示すとともに、小6の子供たちの国語力/日本語力や学習態度を観察します。15分の模擬授業でも気づくことがたくさんあります。進学希望者と保護者双方への心得として、宿題をきちんとすること、欠席したら授業ノートを参考に自分で勉強しておくこと、現地校との両立は自分/家庭で工夫

することなどを伝えます。質疑応答の時間を設け、6年生や保護者からの疑問にも答えます。出入口の近くに中学部の教材を置いておいて、実際に手に取って見てもらいます。本校では、中学部への進級テストなどはありません。本人の希望が優先されます。3月の講師引き継ぎで、出席率、漢字テストの得点や単元テストの得点、授業態度、保護者の様子などが全て、次の担任に引き継がれます。この進学説明会の導入はとても有意義であったと思います。（橋田 かおり）

♣アトラクタ ＊＊＊＊＊

特に何もしていません。（山本 静樹）

♣キャンベラ ＊＊＊＊＊

近年、小学校を卒業した後、中学に進学しない生徒が目立ってきた。中学校の授業内容は確かに小学校に比べて飛躍的に難しくなるが、是非多くの小学校卒業生に中学に進学してほしい。当校には、留年制があって学年相当の学力のない生徒には留年してもらうことも希にある。しかし、中学進学に当たっては厳しい学力基準を設けていないし、中学生は数が少ないので、生徒間の学力に大きな差があっても個々の生徒の学力に合わせて柔軟な指導をしている。中学生には下級生へのリーダーシップを発揮してほしいし、見本となってほしい、低学年の生徒だけが多くて上級生の数が少ないのは、学校の体裁としても理想的とは言えない。（吉田 晴紀）

♣ロサンゼルス ＊＊＊＊＊

漢字の読み と 作文（ユウみちこ）

♣三育学院サントクララ校 ＊＊＊＊＊

もう一つ本校の小学部6年生の生徒がほとんど進学する理由に気づきました。それは6年生の担任がそのまま毎年中学1年の担任をしているからです。そして、小学校低学年から、中学部に続くための国語指導として、辞書引き、語彙を増やすプリント、読書時間の記録さらには学校図書および学級図書の充実に取り組んできました。

そして一貫教育をしているので、友達が友達を誘う。という形で残る子が多いということもあります。また進学指導でも3年間はコミットメントできなかったとしても、夏休みまで。次は2学期まで。ほら後もう少しで3学期が終わるという少しずつ導くという形で励ますこともあります。

確かに日本語がどれだけつくかは生徒によって違いますが、中学部卒業の価値は計り知れないものがあり、それを親子が把握しているとき継続率は高いように思えます。

教える方としては、どれだけ理解しているのかという 不毛の思いになることは多いですが、それでもここで時間を共有し続けるときになんらかの化学反応があることを信じて授業を進めるしかないと思っています。ある意味祈りを持ってです。そして数年後 大学生や社会人になった彼らに再会するときに、中学部まで学んでもらった意義が初めて見えてくるような気がします。授業の邪魔をしない限りは、その子のポテンシャルにかけて、かけがえのない時間を共有すること。これこそが中学部で教える人間の持つべき心構えだと20年ずっと中学生を教えてわかったことです。（前川 英樹）